



此山集  
十



利  
1.979  
9





蘇山集秋之牙三目錄

日

八月十五

九月十三

秋三目錄



鹿山集卷第十

秋部

月

暎とみはぬあせきわは秋まは月  
秋月をのまのうらうの秋  
月うらとあまをせめくの十八集  
月うらとあまをせめくの十八集  
月の陰へうたをと二粒毎風外

さびしき月をいふはなれしうら  
沖月さかんらんらんらんらんらん  
やうらんをゆきうらん月のみまは  
月と日のおらんふり車斗こ懸かけ  
本居へわふさあしう天の河  
ぬりり月のうらやあきさ  
月星の天のうらむれうらん  
水も月と日和合のむらん  
かきつ地のをうらん月のあきさ  
物への月へ油珠のむらん  
月乃歌あじいさあそそあきさ  
あまの雲あきらん月乃歌  
舞あそそ三國一やそそあきさ  
雲此をさうあき月乃白兔  
梳毛へらん男の月此子  
雲あねのくまんかうの種

山こゝろをせしる月やを目錄  
を家わけをうけのまらつこの  
雲氷の魚釣針の三日の月

豊國めぐ

月代をゆきこの嶺の沖光引  
舟人のお新めうゆら舟歌引  
百灯舟中一灯の魚此月  
去の糸此糸のり籠り三りの舟  
村雲ふくしむ月の前舞

長崎へりめぐ

舟出くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋  
舟入くむくまの灘わりの橋

尺の月此うきふ移るわらあま  
天玉此小長刀もみみの月  
移る尺もさるる月のはに枕  
月のこむ村をうつふ 鋤りか  
赤花燈の火さの月のむらさ  
ぬの月をぬるも来乃飯  
三ヶ月のあつる船のへり字  
目こころる夜の月もよる鏡

の移る月や菊の完まといひ  
新法師やこころ入る山月  
るこころの月をさくらか雪あ  
船頭やあつるさ山流舟月の舟  
ひき船こころるこころ月を鏡  
測る流舟うらななふこころる  
つる居るあまこころるこころる  
智あまこころるこころるこころる

出くわくきをよ入る月の弓  
 なるをいし井角をうる月の  
 後ふ面きひしちの弓のせよ  
 みの月やむしひの月やうらむと  
 月の形跡ちる雲やうらり  
 水かをとく橋を月のか形よ  
 下てみまへ善をたねをそむ  
 白雪の月弓てうの木とて  
 ありのくわく水かを月の赤裸  
 月れお母さう知る雲やあよ  
 横雲やゆとらり月の母さう  
 月の形跡ちる雲や十七夜  
 世といふふ深る月の形跡所  
 貨物より化をいさしたる月毎  
 けの清さ雲の月や雲を  
 月代を宿ららんての雲の池

秋女々月や金の丸ぬく  
 ち跡とみ家この月れぞくお  
 秋と冬と志ろまのくや月と書  
 矢とあくつゝあを志け月れら  
 月影の逢さつゝあやふらげん  
 逢さ月とくくからけくのあお  
 秋女々はけあさるめす心月  
 ち地いちくんと秋や何月

月女雲子雲とれい雲とけ  
 ちとら此月や入りの氣棟  
 出ぬすけ是そち切れ矢は月夜  
 秋といみく引つゝ月のごうとね  
 すと切くまん丸るれも水の月  
 美丸を月いすしこの免か  
 昼出く秋らみり月やあつち  
 地の産とまうら書くもあつち



数段の云り天を月夜の白毫  
 上と下へうかづくつる氷は月  
 影をへうまひく玉のうと村  
 柳の月影をらじ水は枝  
 垣をともふ家も月の影を  
 為拂母落くむさうかすは月  
 池を此地りなまきり月の影  
 影まつり此月も世の影は月  
 光り出ると月を落れ玉珠  
 月をくまう雲へか影は影の新世  
 影の此かりそくさる影の月  
 下のくと月やあし此今まら  
 鬼は目のむらりる月のち江山  
 月の影を雲のらりつるこき雨夜  
 何替れうその月はか舟の道  
 知人ゆくはる月の影をうか

夕なんと又見物の月の影  
 くらくをわつと白き月影  
 月との角や出入のありふ  
 三日月の約をうるれやうかの  
 花とるるはしめり月のとけを志の  
 猿猴うらつる月とら水猿杓  
 ろとら月影もや雲の破道の  
 雲はふはら月影のゆけけけ  
 雲の影は百星の月のくらきまふ  
 三日月のたると雲もや勢玉懸  
 花と月影の影んうらふのさきふ  
 くらむら此輪ちひとちる月相  
 月の影は夕のまらまや影の  
 月影影の影んくまらむらう  
 かんきとそぬのらん月の影  
 月代の想うまのよとて川

廿八

ちみ影もろのくもれや月の弓  
 籠の空の月色さきつと西月空  
 ゆく月人のらわたさけ船  
 月みよあつと清子れかき河  
 女字とさろかきひの月花  
 原ささみあつと出つみあ月  
 ほの舟地と物のかさこむつ物  
 ぬかりとあつとつ月の嵐外  
 雲とつとひ月や守護とつ風  
 舟とつと思案あつとつ月の神  
 周らとつと人のまふやなれ食  
 船造すらやあつとつ月の  
 月志ればち代るりもら東山あ  
 月みつとつさきわけ船造れ月の  
 一目さつとみ免案めあらん月の  
 糸抽のあつとつとらん月刀の

毎夜思ふのさく此月を  
あまのさや晴く霧つと秋の  
季吟

白りの月を

ちれ移る川中一あの月 日

あられ月を

入るほほほと出るわははの 日

六の月を

あられ月あまのさよの麻野記 日

あられ月を

月やけよあまのうつくし七夜 日

雲あふふ月ととせんのをあふ 右岩 貞利

まれゆら月をけけ此縁か 染 正伯

あまのあんなさくや月此 ま田 考利

雲あれ月ととせあのかく 橋井 貞房

輝る光さほ月をさあ井か 此列 精川 貞政

あまのさやあまの月あ雲此脚 後山 賢与

月を貞くしつや雲のたしりまの  
月を雲の父母のつら寶珠の  
影を雲を雲をいふる林の月  
あつたの上のく月や雲すま  
月や雲しつや雲此銀の目釘  
雲の園をくく月や雲縁り  
月母のつらまきり人の清き  
月の影の雲を延寿の縁をい

新三

英茂

義  
後成

多林  
友之

樂田  
梅友助

橋本  
毎延

富  
富五郎

廣  
豊次

徳  
為門

光る月如じや雲此の病

聖口

右治

為雲此月や母後のふりか

松崎

西次

為雲母のやくまの月の影

吉丸

一治

月は月抱さつわら雲や母の

政雄

月を今雲の脚をむく

梅口

重吉

雲の上を雲の上を月つた

教習

林友

何れを雲のわらわく

吉持

久友

まの影ひんを雲の月つた

上上

吉持

杉川

玄芳

教賢

貞次

後次

尾

玄統

岩

長昌

斤相

良徳

石

貞則

森

玄慈

登新く月えとさうよりあか  
けとの智恵の流れ月あく  
月への波のふ珠は智恵の鏡  
の鏡へ其母なるやまは月  
月の鏡りきれみうはかう  
月の影を流木はまきや鏡を  
垣時とみるは月への鏡り  
母のりをうへにみる

敬兵やこら拂へ月の剣

正伯

月の雲舟をん上人のさう

孝作

雲客をちてか月の西舟

玄澄

か出の道とさうと月

利政

下旬の月と歌

舞臺

く井流母なる新色は月

安助

河のれくと天子をゆくと

一升

大匠の月を宿まると

酒成

長久寺

月代の影ま城の空のうら

秋の月いそと秋の月切利天

近くかく月常花や田王と

わさそ月毛影やととせん此

あつと月いそととせんのま

月を世あつくと月の中りさ

月へてしてととく天人の舞

海もみか出そ海つく空は月

雲のまや天のうらむ空は月

大そとみかると空をれ月

出入の月や海うんのゆれ空

かまそくや水か流りり空は月

星ふふあいうい精愛や空の月

二子星はゆくのそ月の雲の影

月か雲いあや人あは八九月

遊善母

伊人

玄若

若山

貞

定利

正興

英治

重紀

貞

政忠

安

勝純

一井

貞利

政次

地ろ果結をさへ人や運月の結

但英

九月廿二日月のかたて

廿九歳をうへる月まじり

九月のうへる月のうへる

常

月ハ如来世帯ハ甚難御志

一人

法花子のかんけりそみり月を

一瀧

月と影やささるへ情女つとんの

定留

涙

月ハ佛目ハさらあぬ涙か

良和

目の玉を月の水さら涙くれ

久静

月ハ輪のあらむや新骨車

友心

月影やかりとせと月との葉環

西次

水ハ舟角はぬかり水の月

貞利

山の舟やうつろきそちる定舟

政重

水の月ハ地の中や又雲地上

盛次

多は月ハあつと油のひらき

勝経



御原ウひりりらんらん 沃の月

吉野 位元

新月の集天母すむきりりり

高 定意

その御母の御母の御母の御母

宗孝

まろしめ八景の御母の御母

叶 月

月と目八景の御母の御母

秋榮

月の字は偏りりりりりりり

景 一瀧

御計のつづの字は御母の御母

景 胤及

三つは御母の御母の御母の御母

景 波成

ほれよの月の御母の御母の御母

景 右時

し女子の御母の御母の御母

景 善富

月々御母の御母の御母の御母

景 玄純

水母の御母の御母の御母の御母

景 林麻

十の御母の御母の御母の御母

景 祐政

るの御母の御母の御母の御母

景 宜陳

御母の御母の御母の御母の御母

景 林麻

御母の御母の御母の御母の御母

景 多次

中秋の目録句母

月をあらひ十九如家の新法所

一滴

名ぬあそ又翌日此月又亦

卒

身堂

月をあらひ十九如家の新法所

身堂

名ぬあそ又翌日此月又亦

長調花

月をあらひ十九如家の新法所

月

名ぬあそ又翌日此月又亦

月

月をあらひ十九如家の新法所

月

三日月の夜斗三曲り露外

三日月

わりのあそびさりおりの三ヶ月

三日月

十五夜のあそびさりおりの三ヶ月

三日月

三ヶ月のあそびさりおりの三ヶ月

三日月

三ヶ月のあそびさりおりの三ヶ月

三日月

三ヶ月のあそびさりおりの三ヶ月

三日月

三ヶ月のあそびさりおりの三ヶ月

三日月

三ヶ月のあそびさりおりの三ヶ月

三日月

十五

雲の波のくじの海をり三日月

中流

後寿

桂男うのおうよりあふや三股

葦

重和

ろく男入道あこりみり流きん

系

若呂

中そりいろう男りちりの月

留

重吉

月頼それふハ三日坊主か

平井

貞剛

そり月にお撲めうろ男か

三股

延吉

天井ふそり月御くや三ヶ月

松井

元晴

三ヶ月の海の夜もやうり物

左谷

貞房

釣針のふのすそりくろ海の月

藤山

貞利

えつりてい葉落のくじ小田村

小田

賢与

そり月や高井の笠本村のお

松平

中好

伝るそり月や仁義進への文

田中

毎延

常盤本ハ月きよりりたるい

浪谷

久次

月や村めをりりとくちり松の下

竹田

安助

ひんちりりや松のいぬり

真正寺

玄善

えんちりの菅茶や月のかくれ藪

真正寺

律達

物うとむさびくう月町ら  
是事や山より出らぬこ月

誓 毎延  
善六 賢之

流河虎溪山の月見り

死つじゆらぬ麻のすらり

く啼々れこ

あひる付とらるるこ月

留水 一舟

るそて居ふいそりの角月夜

左平 藝子

輝りて月もさせるも麻の

左平 盛宿

年ぬ移を麒麟の角月夜

了五舟 夕暮

子の時刻より月やじの玉

左平 如負

月乃端ぬそふ馬書や然れば

左平 政重

ふれ書と猿猴や月の秋後人

左平 貞好

猿猴の月ぬ町らへもやつらふ

左平 種宗

ぬへゆく道まればらそん

池上 安明

てんぬるらうき記ぬるやそ

池上 杏子

雲ふれんけこ物へ月のうき

池上 保友

月のうさきおよ百歳を完

巻るれやまきり月の完うさきは毛

みらりやじふうさきまは月の河法

新うのり月の免やねまかひ

うさねり毛い長月の氣うか

ゆう月の新やちりりく氣壁

山の端やあめり月北氣捕

月を向き氣りおく福地山

風やまらぬからく月の氣持

あやまらうさうく月北氣とこ

雲ちとせ月の氣乃あやを

入の坪一月乃氣戸のや北神

虚死の月の氣の雲のくま

星北救やあふさひ月北氣舞

知れ月の氣つうまの氣もさ

あまきとらけ月の氣外

右 吾任

左 昌隆

右 由南

左 首聖

右 正久

左 信元

右 去哉

左 友和

右 如貞

左 宗彦

右 夕辭

左 栞義

右 正純

左 吳隆

右 池子

左 如心

月の氣救目入の好やあめ  
八ち此月の氣のわう子那  
程をや月の蛙北軍とそ  
月のふ家いれもすまみ池の西  
月北蛙本篇てとれハ棟う船  
養保とらうなう月の蛙北本

月桂五百丈とらふと

羅漢うや月のうら此あ百丈

天北系や月のうら此花留

くらうあと雲やうらう月の

出ふ方やそるんくまら

舳艦とやああくとあう月の舟

月の舟を浦の海帆や此波

二子置れかけくわよ月の船

名とつけいこあれよ月乃船

水女流う月や方園のうら舟

十五

中

貞宣

水

貞明

留

舎一

去

好乃

有

助喜

あ勢

友

若殿

正知

利政

同

幸心

忠親

政任

西直

貞宣

十五

播州じらめく

月の舟入や宮おしら此浦

舟船のりや橋かけ六月の舟

一舟舟乃や船船月のし子

とすあん月の舟ささや船

のりみこを新造るれや月の舟

船とせと月乃舟とやよつし

月八是るうり星もたさけ舟

船舟とせのふきハハハハ月

弓張の月やそのまゝ舟軍

月弓とみろたけととしも舟か

りし舟の舟もせ舟船の月はら

わつものしを板やうけを月の

根や舟と射るや流るる月の

しひ舟や舟とけし月のまら

てささけし舟射らちせ月の

舟白

伝元

舟

友勝

舟

常幸

舟

勝榮

下雲

後貞

舟

舟以

舟

心香

舟

舟津

舟

舟

舟

勝重

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

こもくつふらせとらむせ月好  
 つふ対の暮ちりあわ月乃弓  
 引あめつら月ちり月此弓  
 心むく二張のらや水の月  
 東山やあふ月乃のほらあ備  
 うつ男あや月乃れ天下持  
 法つとゆえとら月の入作山  
 知方へつれ月乃や縁段縁く入

後法 善長 正長 正知 正包 正成 正成

おちり原白雪ハ綿ウ月の弓 正乃

新室祝玄母

新室の梅めきうそふや月好  
 うくおあやういあや月好  
 月の星ハうあむ雨のあうそふ  
 月とそうここあは空人月の

後法 善長 正長 正知 正包 正成

侍をめぐ

月此梅男やうら井侍をの  
忠昌



人なぬ月えんきもわゆるり

平尾

素心

新田山の月北きりもわゆるり

橋山

保左

くれそそ月のみすもりの

池田

身

月ハ佛如神とわいもん新法師

橋中

勢子

徳正の榎の本此月の新なりし

お丹

久遠

横川もも月やさそそ新法師

紙石

久遠

知ふハ山脚の月の新法師

お

新

富みかそき月おゆるり新なり

ゆきそそ月おゆるり新法師

了無寺

久遠

新なりし我わさそそ月の

満月とせたそそ新なり

坊

長次

自あけそ月一輪とみそそ

戸

林森

自ふけてそわさそそ

舞

正春

雪の神やみのふそそ

中島

お

る地りあまのそそそ

流

圭可

三國とそそそそそ

月如く川地ら此より起る

松 政存

月を此處を極る川に

誓 林 伴

清くても月を此處の

名 伴

月をんと目のまをり

定之 了壽寺

押ひくまやんを

了壽寺 乃之

押あけく清子の

中川 彦房

けりも眩ま

中川 室治

川をく月を此處

江 林麻

夫よりあそ

月をく中象戯る

中島 良和

後之此月也

中村 乃良

月地の日清く

中村 一正

境のあま

乃良

そ

月の形を新

了壽寺 逸流

うく遊さあ人の

了壽寺 夕好

澁みさうらうらうら 月も清く  
 三笠山も月新なること  
 月も雲天の魔王の精也  
 月もわくくさくさりに  
 月もわくくさくさりに  
 押送るも海風の酒の月  
 母波野瀬のなると月と

高 信屋  
高 長記  
高 貞山  
高 金成  
高 夕野  
高 納家

わんわん

天冠のふのわくまの月  
 但るものともあつても月  
 翠の雲は縁つきもやうき  
 月乃毎月のけうくさくさ  
 月もわくくさくさなる酒  
 湖も月もわくくさくさ  
 月もわくくさくさなる酒  
 月もわくくさくさなる酒  
 月もわくくさくさなる酒  
 月もわくくさくさなる酒  
 月もわくくさくさなる酒  
 月もわくくさくさなる酒

高 貞直  
高 一入  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野  
高 夕野

十五

本常流 唯々 月と  
やと月ハ 中 舟の 雲 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟  
月と 流 之 風 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

中 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟

箱根 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟

舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟

月 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟

月の痛ハ大肉少ハ仕ウカ  
月母まけ竹のふりまの里  
梅山 保友

宇治ゆく

月母めくまうんわふまの芝原  
月あけいまの林やまこれ  
月母にむ大さうやうの月奴  
道生寺 一房 林森 正位

清秋よそ

むらりさ月をたふさこ通船と  
高 休世

こつ糸ふ月ハ澄河かき  
新河さ月のかうまわあ糸板  
すまきうぬ月ハまわら糸板  
さの月を流るぬ糸板ひり  
天とあま地よ糸板  
丸糸のあうまを生れ月糸  
風のもてき糸の月ハ糸  
月ハ糸や元れあうか糸  
貞剛 勝重 安助 貞利 貞儀 宗重 観重 宗重

月つら井宮まかきさる

名 家貞

実のうもをさむらわりの月

名 西次

見地をわたり所らひの月夜

名 梅

月乃るし秋の暗響此の月

名 居

海夜の魚を月を影くし月

名 助清

月の影も縁るや夜念じま

名 森

月つら智志をまこりん

名 守心

後の此月みらん巨佛

名 三多

と夢とつらわ月のうささ

名 此

具山とて月と初まらぬ

月のうささとらてまらぬ

名 月

雲の地香まじぬのうさ

名 〃

とれりか拙も月れ約ら

名 〃

ゆさつらあひもらつさ

名 〃

山姫のあつら月の大め

名 〃

あれ西と月や中よささ

名 〃

廿七

さらり風をたそわとせむ月のお  
 の月のおさく新やうまうら  
 町のうらやま海賊月の舟  
 花露のを流人ゆく月の舟  
 雲がらん新と射らる月夜  
 うら出らひ新よりや新ふ月夜  
 さらり月の常盤や谷さし翠のうら  
 のうら此の端よとせぬのうら  
 さらり月のうらとせつらわりの  
 先の月北のりわけのをま月<sup>方</sup>  
 さらり月やあはれうらまをれを  
 八時うら子とほく人  
 のりうらとくわくひとれ  
 うらそ子とまうらうら  
 一教句  
 うら月へそと名月のわら子  
 〃

けり針と慈想とくくやう胸  
 天の河に雲はけり針のさる此月  
 月の精や天乃河津の水車  
 梵天のまつり燈籠のさの月  
 月と目と酒弥の雲がやまつり  
 やう月あるや世家の落乃敷  
 月の落ふあはさるやけさの原  
 さる月の部まはかりさるさ  
 と  
 と  
 と  
 と  
 と  
 と  
 と

月鏡の虫とさるりか樹の雲  
 むかりさるさるる男や金甲  
 鞍とあけよ月母一夕かけの約  
 多ふうのらお月すんさるさ  
 秋の葉や月さる撮のさるけ  
 飛をらん月葉母たはさるさ  
 月母ひらうさるや燈籠の半は玉  
 月さるさるさるさるさるさ  
 と  
 と  
 と  
 と  
 と  
 と  
 と



皆ち此月をんらんわんを病は者  
 女みくらくらたはひの病の  
 小きむら山にありぬ風の月  
 ときよのくさる月もやう  
 風わりの月吹くさる文の科  
 月人の顔のくさる月  
 くらびきし入わら月も鹿志  
 月と憎じまの病は人あひひ  
 女く入さる月もく月病  
 女く入さる月もく月病  
 月病く病じくさる月病  
 角かまよ病じ浮の病は月  
 月病く病じくさる月病  
 本は病あて病は病は病は  
 病くくさる病は病は病は  
 病くくさる病は病は病は

月母如雲をちりちりたる月の國也  
 竹田海らるる月の夜也  
 正美の河をこりて流るる月の夜也  
 月へあそび十萬億去る方も  
 ときられどもあそびける時下  
 立費らるるあそびも

月出くひらふふふの山路也

角や活き清室とて

秋の月色あふ代中して十もわたり  
 雪をうらう月へ判官あふ  
 煩悩の雪も月影のいぬか風  
 雲雲いじと流るるれも月の  
 月母をうらむ境れあふ  
 月らふもあふれ月やたなひ  
 月へ雲とほさむけくゆか介  
 月あふもあふしあふらるる月也

竹山の月や敷いり十六夜  
 月のふもとあふ十六し女外  
 おめせお月もころち十六夜  
 憲法を月の利生や十七夜  
 月へ美人魚女やめくじ十夜

名月

只ころの伯父共ころ男外  
 十夜六や月の歌えん九夜

月の名をいふ方ふくらと痛  
 月く北月八月六くらふの月  
 端竹りやいあふ月のか  
 山の端やのちまはる月  
 きら月やあふくはる月  
 天母やあふくはる月  
 芋も子もあふくはる月  
 月あふくはる月



月をくもすみい花のさう物  
 人の目もさうりり月乃光所  
 大上戸みくもあわぬやる月夜  
 芋此子も月見はれぬ家つよ  
 昼も月とあらし有るよ  
 うねなるすあわくらん月夜  
 菊やあまひせんさる月のちぢま  
 芋此子のさふ御おひらる月夜

名月の流ぬさうらうたをりあふ  
 鏡も色芋名月のいもす  
 け林や芋名月の芋スガレ  
 菊重ハコシキのいけりる月夜  
 うた月のうけりる青ハ目此光  
 去のうやせん中らつ年々ふの  
 藝弱名冬をさむ  
 三み秋の半國つそあさ月

月母星如晴うそのあふふ  
所名ととえ尸中ひそ月の歌  
名月八目竹えくちと詠ふ  
詠ふしむ思ふ事あるその秋は月  
て秋月の男さくらひと書ふ  
名あゆふあふれ月わらば  
かきしなまうもさん此書  
の

能女

虫とむやと背の月たらの葉  
あゆむとと新志と月かん  
廣沃の産中ととわ結の  
名をさる子月八目とと  
あまてらひ秋の月の風をん  
秋の月とと毎はまの月  
湯の懸け名月うあふひ新  
名月あてんとと人秋のほ

季吟

友宣

久成

信成

忠成

らんしんよ晴れ月の雲の  
名月おかしらてのらふるり  
名月を程をせは等わの

貞好

名月

勝長

あしりしめ

摺

保友

系

別家

性房

留

政信

ぬれをあらひの月おのひ  
あつみのそむつ月あつ  
孫り繁り等名月の縁外  
ぬれり等名月乃新法解

姨桑や老と十の結の月

高

延法

ととそふ下十め来れ月

森

舎重

十め来れ月と境あつら

徳

勝法

月からと雲と二九の十

福井

一炊

う細く玉の月あつら

法

法之

三ヶ月とあつら

名

政辰

七来やくとあつら

名

名産

三十のたつら男そふ月

名

保方

大つやふみの月ハ艶の極  
月さらして雲の帯くらん  
一期二こふみとれぬ月つ余  
定るやせん基此月の赤白  
名もき盤こふみ秋中此松の月  
女山寺とくりこふみの月水  
住者八月ふみあがりて

住のいふとふみの月ハ満珠外

可く人とも色かうとも月の目方量

樹の本あちちやまひ此ら月夜

る月のもすききやこれ樹の

りら月いふすひさきけはきや

三國を一掃るりりら月秋

らあ母さうくや大佛より月夜

三國やあまのあてはら月秋

りら月あつし雲をまゆ所糖

新 西伯

一期 一帯

一期二 利政

定るや 久壽

名もき 毎夜

女山寺 三子

住者 乃云

住のいふ 乃云

可く人 云成

樹の本 良保

る月 佳佳

りら月 林麻

三國 如雲

らあ母 定次

三國 三子

りら月 出明



久しきり木原に三也りの所夜  
丁酉 一急  
くあつとくやうあつたる月夜  
夕暮

花彈舟たりし時

ひらりよ月のもらむわくつ時  
淡 石名

中一の神也、からくつさうり引ら月夜  
北外橋 言淑

まゆら戸切なるまわら月夜  
森 誠鑑

りら月一人の洞北ありんか  
森 華太

くくこそら整りてまわら月夜  
夏之

御庭ましく友へははめれ月夜  
年尾 利政

流く福んとみまれをさき  
望月夜 華山

名ひらまの祝井のくわら月夜  
望月夜 林麻

めあつたる月やまの帯祝ひ  
華山 一助

うまゆをまき枝こえり月夜  
茶園

地の下へ入るよらら月夜  
茶 真昌

みくおあつりよま下り月夜  
華山 董林

雲門と出るとくわら月夜  
一滴

雪の上をきりいりんころふ月  
ぬれぬも中夜何の心もふ月

雪秀  
感備

山さひちりはるこゆら

哲山康の山深ゆすむら月

借

角

中林の月い今川のさひ月

染

白伯

ぬる星とさむむと青月純

荒

守成

日抄

みゆの月とさひ日抄

去

時七

あうりけり

月かふふと青の字りわぬ冠

各

心

月からと雪もと青はぬ海

高

一痛

と青うらとえぬらる月の峰

戸

勝負

郷とさひ上るん月の感え

特別

考久

月同とあさしと緑ぬと青ふ

急次

名月とほけりくえりやうら

長

名月をぬぬりくらぬ秋

同

恒春とらふ名もあつし月姑 日  
かろ人の名月かろくや慶の寺 日  
雲霧やこる月のまあらし

古筆より伝はら

かりの月を月をあつし月姑  
月のあかりもさつし月姑  
云二年をらふ名中此月姑  
月かろせよ名夜中の月姑

此の月十五歳の姑

十女名中んふ此の月姑  
りら月の光いふふらん外  
清く字の影や中夜  
八月十五夜友はこころ

くらめ

まろの月をらふ名中此月姑  
年中の月をらふ名中此月姑

九月十三日

二子も此の葉も此の影も  
くまらふ二夜ひつくりを結の  
と背も月のうらもあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

枝中りいあふく月をたのむ

のしきあふく月いふあふく

まらさういあふくあふく

のあふくあふくあふく

九月十三夜の月雲を

出づあふ

十二夜よあふんてあふ

あふくあふくあふく

あふくあふくあふく

文志のあふく

ま初うすくあふくあふく

あふくあふくあふく

あふくあふくあふく

あふくあふくあふく

喝食とあふく

あふくあふくあふく

季吟

月

利政

松子

古時

定房

道藏

良知

高次

一身

御井

清之

女名荒本

方殿

同春

一殿

角

角

角

長調托

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

御井

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

あふ月あつたをまじ肺の

角

角

角



